

10	稲沢	稲沢市立大里中学校	ホッタ 氏名 堀田	エミ 恵美
分科会番号	2	分科会名	外国語教育	

研究題目 主体的に考えながら表現することのできる生徒の育成 ～「話すこと」での終末活動に向けた授業の工夫～

研究要項

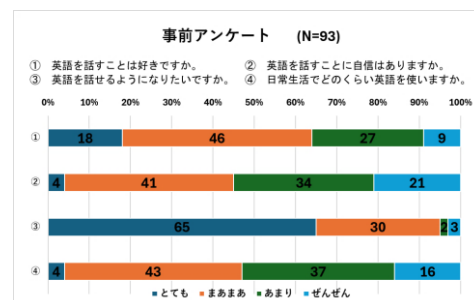
I. 研究主題設定の理由

研究を進めるにあたり本校1年生 93 名を対象に、4月下旬に事前アンケートを実施した【資料1】。生徒の9割以上が「英語を話せるようになりたい」、6割以上の生徒が「英語を話すことが好き」と回答しており、英語を「話すこと」に関して肯定的な意識を持っていることが明らかになった。一方、「日常的に英語を使用しているか」という問いに対しては半数以上が「使用していない」と回答しており、学習内容が実生活と結びついていない現状が浮き彫りとなった。

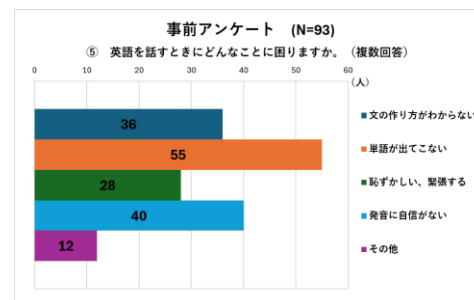
また、「英語を話すことに自信はあるか」という問いに対しては、半数以上の生徒が否定的な回答をしている。英語で話す際に困難を感じる要因【資料2】として、「単語や文の構成力不足(単語・文法)」や「心理的な障壁(恥ずかしさ・緊張)」、「発音への自信のなさ」などに多くの生徒が回答をした。

これらの結果は、生徒は「話したい」という意欲を持ちながらも、自分の考えや気持ちを外国語で具体的に表現していくためのステップや支援が不足しているという課題を示唆している。

以上の現状を踏まえ、本研究では、相手に伝えたいと思えるような目的・場面・状況等を明確に設定した「話すこと」の言語活動を単元の終末活動に据え、「話すこと」で相手に自分の考えや気持ちを伝えられる生徒を育成すること、その終末活動に向けた授業の工夫としてインプット活動を充実させることに焦点をあてて研究を進めていく。



【資料1：英語を話すことについての事前アンケート①】



【資料2：英語を話すことについての事前アンケート②】

II. 研究構想

1 目指す生徒像

本研究で目指す生徒像を次のように設定した。

目指す生徒像① 主体的に学びを深めようとする生徒

目指す生徒像② 自信をもって英語で「話すこと」によって相手に伝えようとする生徒

2 研究仮説

研究の仮説を次のように設定した。

(1) 仮説1 目指す生徒像①に対して

・終末活動を意識して、表現を蓄積したり自己の学びを調整したりしながら学習を進めることで、主体的に学びを深めようとする生徒が育つだろう。

(2) 仮説2 目指す生徒像②に対して

・目的・場面・状況と伝えたい相手を明確にした終末活動を設定し、ペア活動やICT機器を使用するなど楽しみながら繰り返し練習できるインプット活動を充実させることで、自信をもって「話すこと」によって相手に伝えようとする生徒が育つだろう。

3 研究の手だて

目指す生徒像にせまるため、次のような手だてを設定した。

(1) 仮説1に対する手だて

手だて1 「OPP (One Page Porfolio) シートを用いた授業の振り返り」

振り返りを行う際に OPP (One Page Porfolio) シートを活用する。その際に、終末活動で使用できるような「英語表現集」や、思考を活性化させるための「マッピング」を OPP シートに集約し、常に終末活動を意識しながら、表現を蓄積し、学びを調整していく。

この手だてにより、主体的に学びを深めようとする意欲につなげていく。

(2) 仮説2に対する手だて

手だて2ーア 「ペア活動による単語・音読の練習」
インプット活動として、ペアでの単語や音読練習を繰り返し行っていく。ペアで活動する際に、読めない単語を聞きあったり、教え合ったりする中で、語彙やフレーズの定着を図り、自信へとつなげていく。また、単語練習には東京書籍の指導書コンテンツライブラリーに公開されている「発信活動のための語彙リスト（以下、語彙リスト）」を活用し、終末活動で使用できそうな単語をリストに組み込んで行っていく。音読練習も同様に、東京書籍の指導書コンテンツライブラリーに公開されている「音読ワークシート（以下、音読WS）」を活用していく。
手だて2ーイ 「ICT 機器を使用した反復練習」
インプット活動や終末活動において、ICT 機器を使用し、楽しく練習を行っていく。その際、東京書籍の指導書コンテンツライブラリーに公開されている Key Sentences の「発音練習アプリ」や、Google アプリの「Read Along」、Sky Menu などを使用する。これらのコンテンツを使用することで、単調になりがちな音読や発話練習に楽しみや達成感を生みながら、反復練習へとつなげる。

以上、これらの手だてにより、自信をもって「話すこと」によって相手に伝えようとする意欲につながっていく。

Ⅲ. 研究の実践

1 学期の終末活動として教科書 P54、55 「Stage Activity “All about Me” Poster」をもとに、「All About Me 自己紹介 ～自分のことをもっと知ってもらおう～」という活動を設定した。なお、本来の言語活動は、「書くこと」であるが、本実践では「話すこと（発表）」に言語活動を変更した。本市では中学校に ALT が派遣されていない。そこで、本実践のために一部の生徒の出身小学校から ALT をゲストティーチャーとして招き、ALT に向けて自己紹介をすることで、英語使用の必然性をもたせた。これを踏まえて、以下のように、目的・場面・状況・相手を設定した。

終末活動：「“All about me” Speech～自分のことをもっと知ってもらおう～」	
目的	お世話になった／初めて会う ALT の先生に自分のことをよく知ってもらおう。他クラスの友達にも、自分のことをもっとよく知ってもらおう。
場面	普段一緒に英語を学習することがない他クラスの生徒とグループになり、ALT の先生に向けて自己紹介のスピーチをする。
状況	他クラスの仲間に自分のことを伝えたい、ALT の先生に中学で学んだ英語を披露したい
相手	他クラスの仲間・ALT

終末活動は、1 年生 3 クラス合同で行い、他クラスの生徒と一緒に 6 人でグループを組むこととし、自己紹介をする目的を、より生徒が実感できるようにした。

1 授業実践 (Unit1～Unit4)

(1) 実践内容

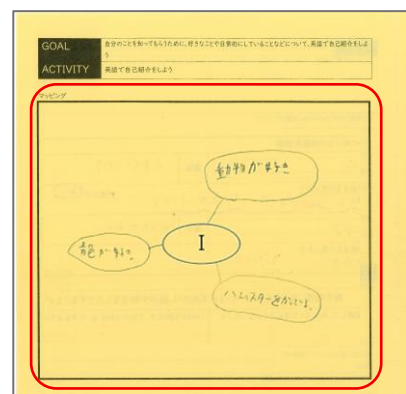
① 手だて1 「OPP シートを用いた授業の振り返り」

Unit1 の導入時に「3 文」で自己紹介活動を行った。その際、OPP シートに自己紹介で話す内容を「マッピング」に記入した【資料3】。活動後、1 学期の最後に行う終末活動について伝え、単元を学習していく中で、終末活動に向けて学びを深めていくこと、振り返りを行う際に、終末活動で使用できそうな表現を「英語表現集」に蓄積していくことを伝えた。各 Unit の振り返りの際には、単元を通して学んできた表現の中から、自身の自己紹介活動に使用できそうな表現を 2 つ選び、その意味、選んだ理由と共に OPP シートに記入させた【資料4】。

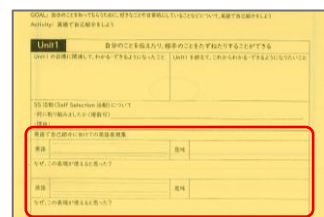
また、Unit3 に 2 回、Unit4 に 1 回、「ペアトーク」を行った。活動後に、自分やペアが話した表現の中で、自己紹介に使えるような表現も資料3のマッピングに英語で追記させた。

② 手だて2ーア 「ペア活動による単語・音読の練習」

単語のインプットと本文の音読をペア活動で行った。それぞれの活動時に、「語彙リスト」と「音読 WS」【資料5、6】を配付した。活動は以下のように行った【資料7】。Unit1 と 2 で使用した語彙リストは、東京書籍の指導書コンテンツライブラリーに掲載されているものをそのまま使用したが、Unit3 と 4 では、一部掲載語を変更した。その際、前述のペアトークや終末活動において、実際に使用が想定される



【資料3：OPP シートの一部（資料4と両面印刷）】



【資料4：OPP シートの一部（資料3と両面印刷）】

単語や表現をリストに入れた。

13 あたの一番好きな～は～です。	What's your favorite ~?	38 一生懸命に	hard
14 ～～です。	It's ~.	39 勝ちたい	want to win
15 あたのヒーローは誰ですか。	Who's your hero?	40 次の、今度の	next
16 住む	live	41 次の試合	the next game
17 …のまわり、近く	around	42 がんばってね。	Good luck!

【資料5：赤丸が変更した語】

1 こんにちは、みなさん。	Hello, everyone.
2 ぼくはエドワード・トラウトです。	I'm Edward Trout.

【資料6：指導書コンテンツライブラリーの音読ワークシート】

〈ペアによる単語・本文音読活動のルール〉 A：チェックしてもらう生徒 B：チェックする生徒

- ・ 単語の場合は、教師が今日練習する単語を決める。
- ・ Aは語彙リスト／音読WSを見ながら答えるか、見ないで答えるか決める。見ないで答える場合はBに自分の語彙リスト／音読WSを渡す。
- ・ Bは上から順番に日本語を出題する。Aは英語で答えていく。この際、答えることができた単語／本文のリストに○をつけていく。見ながら答えている場合、Aは自分自身で行い、見ないで答えている場合はBに○をつけてもらう。
- ・ 指定した時間内にすべての単語／本文すべてのチェックが終わった際は、Bはランダムに出題するか、Aが語彙リスト／音読WSを見て答えていた場合は、もう一度上から見ないで答える形式で取り組む。

【資料7：ペア活動の流れ】

③ 手だて2ーイ 「ICT機器を使用した反復練習」

Key Sentencesの発音練習と本文の音読練習のアプリを、それぞれGoogle Classroomの「授業」から「資料」と「課題」として配付し、生徒が自由に選んで練習できるようにした。

Key Sentencesの「発音練習アプリ」は、公開されているURLを「資料」に貼り付け、生徒に配付した【資料8】。

本文音読練習には、「課題」に「Read Along」を使用して本文を入力したデータを添付し、生徒に配付した【資料9】。英語を正しく発音すると、「★」（以下、星）が現れ、本文をすべて読み終わると、1回の練習で手に入れた星の数を確認できる。Read Alongの外部サイトでは、Googleアカウントを利用してログインすることができ、星の累積数を確認することができる。（数に応じて、プレゼントボックスが開くPrizeもある。）

（2）結果と考察

① 手だて1 「OPPシートを用いた授業の振り返り」

生徒は、資料10のように、終末活動に向けて表現を蓄積していった。Unit1、Unit2では、「好きなこと」や「所属する部活動」について伝える表現が本文で取り扱われており、それらを英語表現集に記入する生徒が多かった。「なぜ、この表現が使えると思った？」と選んだ理由も一緒に書かせたことで、終末活動を想定して英文や語句を選ぶことができる生徒が多かったように感じる。

Unit3、4のペアトークの後に、表現を追記したマッピングが【資料11】である。Unit3と4は疑問詞を使用した疑問文が扱われているので、疑問文を追記する生徒が多かった。終末活動では、「聞き手へのメッセージ」を一言添える形で自己紹介を終えることもできると伝え、ALTの先生にも好きなキャラクター聞こうかな」と相手の顔を思い浮かべながら表現を書き込んでいる生徒が多くいた。また、Unit1の導入時には日本語で書いてあった文を英語で改めて書き込み、線をつなげる生徒も見られ【資料12】、Unitを学ぶ中で、伝えたいことを英語で表現できるようになったことが伺える。マッピングに英文で書き込むことで、終末活動でそのまま使用できる表現を蓄積することができた。

Key Sentence発音練習①～⑥	
Key Sentence①	https://sw101.tsho.jp/nh-pronunciation-/index.1
Key Sentence②	https://sw101.tsho.jp/nh-pronunciation-/index.2
Key Sentence③	https://sw91.tsho.jp/nh-pronunciation-/index.3
Key Sentence④	https://sw91.tsho.jp/nh-pronunciation-/index.4
Key Sentence⑤	https://sw101.tsho.jp/nh-pronunciation-/index.5
Key Sentence⑥	https://sw91.tsho.jp/nh-pronunciation-/index.6

【資料8：「発音練習アプリ」のリンク先】

【資料9：生徒に配付した「課題」の内容】

英語で自己紹介に向けての英語表現集		
英語	take	意味 …を利用する…を受ける
なぜこの表現が使えると思った？		
自分の習い事を簡単に表現できるから。		
英語	so	意味 だからそれでいい
なぜこの表現が使えると思った？		
理由を簡単に伝えられるから。		

英語で自己紹介に向けての英語表現集		
英語	Call me...	意味 私さ…と叫んでください
なぜこの表現が使えると思った？		
自己紹介で名前を言うよりさういふから。呼びかけがよいと思われ。		
英語	I like ...	意味 好きなこと(もの)は...
なぜこの表現が使えると思った？		
同じものが好きな人と話せると思ったから。		

【資料10：自己紹介を想定して表現を選んでいる】

② 手だて2ーア 「ペア活動による単語・音読の練習」

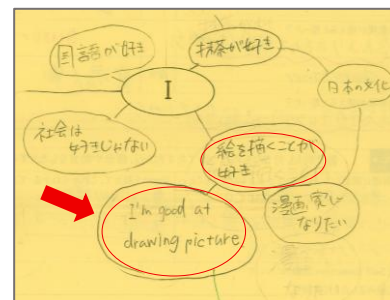
単語・音読の各活動は1分～2分と短時間に設定したことで、テンポよく活動することができた。答えることができた単語／本文に○をつけていくことで、「分かるようになった単語が増えてうれしい」「本文を全部読めるようになった」「日本語を聞いて英文が作れる」など達成感を得られた声が聞かれた。ペアによっては、時間が余ると「じゃあランダムで出題するね」と時間いっぱい使って活動する様子も見られた。振り返りで、ペアでのインプット活動が有効であったかという問いに関して、資料13のような肯定的な記述が多く見られた。



【資料11：矢印（赤）が追記した部分】

③ 手だて2ーイ 「ICT 機器を使用した反復練習」

Key Sentences の発音練習は、「○」「×」の判定がすぐに分かること、気軽にやり直しができることなどから、楽しみながら何度も音声を入力する生徒が何人もいた【資料14】。また、自分の話した英語もどのように聞こえているのか画面上に表示されるため、どの単語をうまく発音できた／できなかったのかもすぐに確認することができ、自分で改善点を見つけて取り組むことができた。「1回で○がもらえてうれしい」「Trout がうまく発音できなくて悔しい」などの声があった。



【資料12：矢印（赤）が英語で追記した部分】



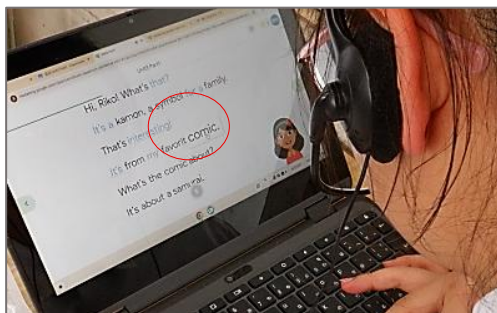
使いたい単語を覚えることができたから
教科書単語帳の活用ができたから

ペアで、話し合えるようになってきたから
自己紹介に使える表現が多くなったから

【資料13：ペアでのインプット活動に関する振り返り（左：単語、右：本文の音読）】

【資料14：○判定をもらっている】

本文の音読練習においては、Unit1 では、多くの生徒がスラスラと本文を読み、星を多く集めることができた。また、読めない単語をその場でクリックすると、画面上のキャラクターが教えてくれるため、どのように発音するかを各自で確認することができていた【資料15】。振り返りで、これらの練習が有効であったかという問いに関して、資料16のように「自信がついた」など成長を実感している記述が多く見られた。



【資料15：「comic」の読み方が分からずクリックして音声を確認している】

きれいに発音できるようになって、少し自信がついた。
自分から発音できているのが嬉しかったから。
星をたくさん集められたから楽しかった。
英語をスラスラと読めるのが星の数で感じられた。
発音のしかたが分からなかったらすぐに先生に聞いてくれたから。

【資料16：Key Sentence の発音練習アプリ（上2つ）、Read Along アプリ（下3つ）に関する振り返り】

2 授業実践（終末活動）

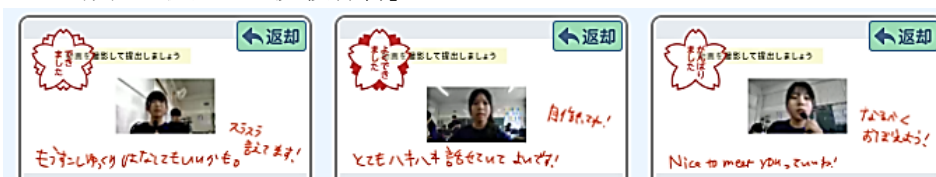
(1) 実践内容（手だて2ーアはインプット活動であるため、本単元では行っていない。）

① 手だて1 「OPP シートを用いた授業の振り返り」

OPP シートに、改めてスピーチのためのマッピングを作成した。その際、英語表現集に蓄積してきた表現や、マッピングに書き足した英文を参考にスピーチの内容を考えさせた。

② 手だて2ーイ 「ICT 機器を使用した反復練習」

スピーチの練習の際には、Sky Menu の「発表ノート」を使用した。自分のスピーチを録画、再生して確認を繰り返し、内容や聞きやすさ、視線などを自分で改善していった。授業の最後には、「その日一番よいスピーチ」を教師に提出し、教師はその動画にコメントして返却した。生徒はそのフィードバックをもとに再度スピーチの練習や発表内容を推敲



【資料17：生徒が提出したスピーチ映像と教師のコメント】

した【資料 17】。

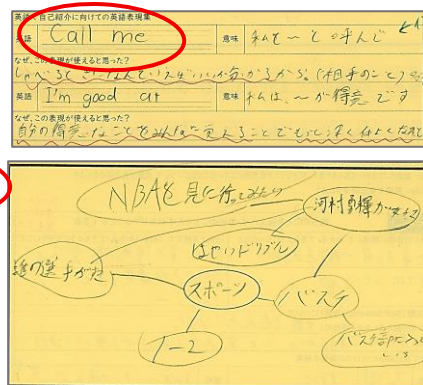
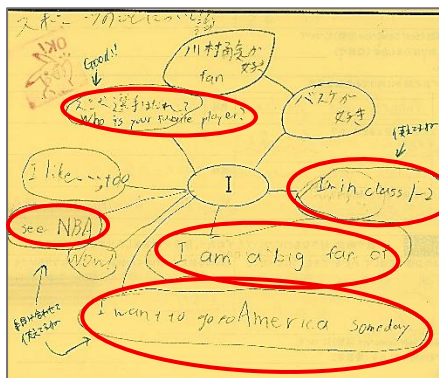
(3) 結果と考察

① 手だて1 「OPP シートを用いた授業の振り返り」

実際の発表の様子が資料 18 である。資料 19 の生徒 A は、ペアトークで集めたフレーズを多く使用しスピーチを行った。また、資料 20 の生徒 B は、Unit 1 から Unit 4 で集めた単語を多く使用しスピーチをして【資料 21】。

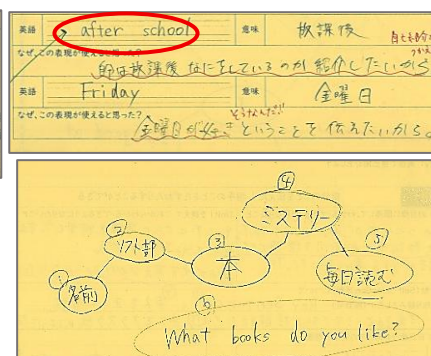
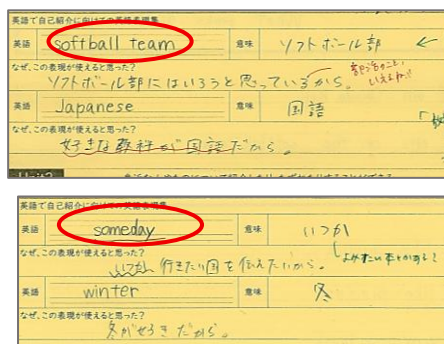
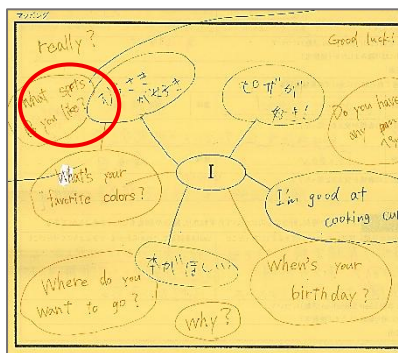


【資料 18：実際の発表の様子】



Hello everyone! I'm ... **Call me Shunsuke. I'm in Class 1-2. I'm on the basketball team. I want to be a starter. I want to win the next game. I'm a fan of Kawamura Yuki. He has a fast dribble. I want to see NBA someday. Who is your favorite sport player? Please tell me.**

【資料 19：生徒 A が書いた OPP シートのマッピングや英語表現集の一部、一番右がスピーチで話した内容】



【資料 20：生徒 B が書いた OPP シートのマッピングや英語表現集の一部、右下は最終マッピング】

Hello. I'm ... I'm on the **softball team**. I like reading books very much. My favorite book is **mystery**. I read books **after school** every day. I want to read a horror novel **someday**. **What books do you like?**

【資料 21：生徒 B がスピーチで話した内容】

蓄積する段階からスピーチを見越して表現を選んでいたので、ほとんどの生徒が 1 時間以内に発表内容を考えることができていた。また、自ら選び、1 度口にしたことがある表現のため、英語が苦手な生徒も「発音が分からない」ということがなかった。

活動後に行った振り返りでは、資料 22 のように、「やりやすかった」「(マッピングに) 非常に助けられた」など、スピーチの内容を考える際に、有効に活用されていたことが伺えた。

自分紹介につかえそうなものをたいて人がきくわえていたからとてもやりやすかった。何をいもるのかマッピングを見れば思いついたから。マッピングに書いた情報と新しい情報をまぜていい内容ができたから。スラッシュは!! バスケが好きで書いたのが非常に助かった。

【資料 22：マッピングや英語表現集に関する振り返りの記述】

② 手だて2 イ 「ICT 機器を使用した反復練習」

繰り返し録音、再生することで、何度もスピーチの練習を行うことができた。提出する際に、自ら教師へのコメントを追加したり、2 つの動画を貼り付けてどちらがよいか見てほしいと声をかけたりする生徒もいた【資料 23】。ヘッドセットを使用した生徒もあり、周囲を気にせず自分のスピーチを確認することができた。生徒は、客観的にスピーチを聞いたり、教師からのフィードバックを得ら

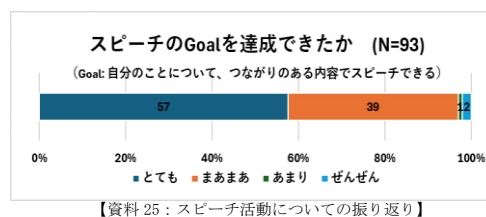


【資料 23：左の青い部分が、生徒が追加したコメント】

れたりすることで、スピーチの改善や、「もっといいスピーチにしたい」という意欲の向上につながる事ができた。教師側にも、生徒一人一人の進捗状況を把握したり、フィードバックにより価値付けができたりと、様々な利点があった。

IV. 研究の成果と課題

終末活動後の振り返りでは、多くの生徒にスピーチへの達成感や自身の成長、スピーチへの自信を感じられた記述が見られた【資料 24】。また、ほとんどの生徒が GOAL を達成できたと回答しており、充実したスピーチができたことが伺える【資料 25】。



① ALT の先生への自己紹介活動を振り返り、よかったこと・できたこと・楽しかったこと
- ALT の先生とコミュニケーションがとれたので良かったです。あと、つながりのある自己紹介ができた。 - 先生が質問に答えてくれたことに対してリアクションがとれました。スピーチも伝わった感じだったので、話せた感じがしてうれしかったです。 - 笑顔で、ALT の先生の目を見てスピーチができたことが良かったです。小学校の時より、大きな声で言えました。
② 1 学期のはじめに行った「3 文での自己紹介」と比べて、成長したな、と思うこと
10 文で自己紹介ができたこと。新しく知った単語を使って色々な疑問文や肯定文を作れた。 - 自己紹介が、名前と好きなものだけではなくて、どうして好きなのかや、好きなものの特徴も言えるようになったと思う。 - とにかく、使える単語がぐんと増えたこと。take、also、favorite など難しい単語が使えた。 - はじめは、3 文で精いっぱいだったけど、今日は、文章が今までのマッピングのおかげでいつまでも続きそうだった。

【資料 24：生徒の振り返り】

また、その後に行った事後アンケートの結果が資料 26 である。事前アンケートと比べると、「話すことが好き」「自信がある」に「とても」「まあまあ」と答えた生徒の割合が増加した。

1 研究の成果

○ OPP シートを使用しながら「表現の蓄積」を行っていくことそのものが、主体的に考えながら英語で伝えようとする姿であった。ALT に何を伝えようか、何を聞こうかなどを想定しながら、表現を探し、OPP シートに記入していくうちに、終末活動への意欲が高まっていた。また、導入時から、終末活動を意識し、目的をもって日々の授業に取り組むことができたことも、生徒の主体的な学びにつながった。

○ ペアでのインプット活動は、お互いに分からないところを教えあったり、短時間で繰り返し活動に取り組んだりすることで、語彙や表現の定着につながった。生徒は、そのようにして定着させた知識・技能を、ペアトークや終末活動においてアウトプットしていき、自信をもって自分の考えや気持ちを話して伝えることができていた。

○ ICT 機器を利用した反復練習により、判定が出たり、星を集めたりと、楽しみながら活動を行うことで、生徒は飽きることなく、意欲的に繰り返し練習することができた。また、AI に聞き取ってもらうため、正確な発音を心掛けたり、間違いの指摘や単語の読み方の確認が即時にできたりと、様々なメリットがあった。Sky Menu クラウドの発表ノートは、動画を繰り返し撮影し、聞くことで、効率よく発表の練習を行うことができた。また、教師に動画を提出したり、教師からのフィードバックを受け取ったりすることも容易にできるので、教師も生徒の活動への価値付けがしやすかった。これらの ICT 機器の活用は、生徒が英語を「話すこと」への自信につながっていった。

2 研究の課題

● OPP シートの「表現の蓄積」により、スムーズに終末活動に取り組めた反面、内容を深めようとした生徒が少なかった。また、Unit の本文で取り扱われている「スポーツ」や「動物」をテーマにしたものも多かった。上位の生徒には、自由に自分の考えや気持ちを表現していくための手だてを考える必要があった。

● Key Sentences の発音練習アプリシステムの精度が高すぎるため、音声を入力すると、自分の声だけでなく、周囲の声を拾ってしまうことがよくあった。そのため、なかなか判定で○がもらえず、練習が進まない生徒がいた。使用するソフトや機器のトラブルは回避できるよう準備したい。

